

梅窓院通信

春彼岸号

No.57

2012/03/01

青山



青山家第十四代後見人である
撮影された梅窓院境内の夜桜

様が

住職挨拶

梅窓院第二十五世

中島 真成



はや今年も春彼岸を迎える頃となりました。皆様にはお変わりなくお過ごしのことと存じます。

この元旦の法要、修正会も滞りなく厳修することができました。本当に新年早々の行事になりますが、本堂いっぱい
の参詣者をお迎えしての法要となりました。ありがとうございました。

また、法要後のお雑煮とおせちの振る舞いも、多くの方に喜んでいただきました。今年はお汁も含めての完全な精進料理とし、また輪島太漆器商會さんの取り皿も用意しました。梅窓院なりの元旦行事が序々に固まりつつあると感じています。

境内伽藍整備ですが、皆様のご理解ご協力をいただいて進めてきた墓苑の参道整備がようやく終わりました。約六十のお墓の香炉を整備してもらい、車椅子でも入れるようになりました。長期に亘った墓苑整備ですが、これで一段落です。改めて皆様に心より御礼申し上げます。

さて、春彼岸では例年通り郡上物産展を予定しています。梅窓院の境内で始めた郡上踊りの人気が年々上がり、境内では収まらなくなり、現在は秩父宮ラグビー場の駐車場を会場としていますが、郡上の殿様だった青山家が梅窓院を建立されていることもあり、郡上と梅窓院の関係はこうして形を変えながらも続いています。自然に囲まれた郡上の美味しい品々をぜひ味わってください。

最後にお願ですが、本紙の連載企画、「わが家の宝物」にご登場いただけるご家族をお待ちしています。梅窓院の行事にお孫さん連れでお越しいただいた時に、広報部の者がお声をお掛けすることがあります。どうぞ、お檀家さん同士のご縁を深めることにもなりますので、ご協力いただけますようお願い申し上げます。

仏教歳時風物詩 (17)

春を装う彼岸参り

新宿区 香蓮寺住職

勝崎 裕彦

寒

かつた冬が過ぎて、暖かい春の訪れを迎えると、私たちの身心もおのずからやわらぐ。凍てつく冷たさに寒さ対策も万全に構えてきた身心を、春の気温と陽光にゆるやかに解き放つのである。

当然のことながら、寒さ凌ぎに着重ねて、着ぶくれた衣服のほうも少しずつ薄物になり、防寒の色合いのものから春の華やかな彩りに移って行く。軽やかな装いは、老若男女それぞれに変わることはないが、とくに色物の豊富な女性や若い人の服装には、春の訪れに対する反応も敏感である。それはまた着る物だけにかぎらず、身につける装身具や手に持つ持ち物にいたるまで、春の到来に対するすばやい対応がある。

今回は、春の風情を求めて、彼岸時分の頃合いに、衣の生活の視点から一文を綴ってみる。服装・服飾の春の歳時記を眺めて、春めいた気分を感じてみたい。

歳時記には、人事生活の項に特別に「衣」という小見出しを付けているものもあるが、その最初の季語が春衣で、「はるごろも」とも「はるい」とも読む。もちろん、春になって身につける着物の意味であるが、普通には和服を指す言葉である。洋服のほうは、春服

という季題の下に、春の服・春装・スプリングウェアなどの季語が挙げられている。総じては、春の着物という季語で括ることができる。

新しいファッションの世界では女性の服飾分野にどんどん新鮮な変化をもたらしているが、もとより俳諧の季語の世界では到底追いつくことができない。まずはお許し願って、ここでは古風な装いの香りに浸って、春の花衣を並べてみよう。

花衣自体も、花見衣・花の袖・花の袂・花見小袖・花見衣装ときれいな類語を揃えているが、菫衣、柳衣、桃衣、桜衣、躑躅衣、山吹衣、藤衣と記してみると、うるわしい女性のいかにも華やかな春の装いが思い慕われる。たとえば柳衣の欄には、花柳衣・青柳衣の美しい季語、そして柳重とあり、これは桜重や藤重ともども、和服の衣重の優美なさまを伝えるのである。

脱ぎあうて若き母娘や花衣
母ならぬ身に紐つよく春給
母に母ありむらさきの春シヨール (成子)

ここには母を思う心を深くして、母に心を寄せる句を掲げた。小島延介の句は、脱ぎ重ねた華やかな和服と母娘の美しさが、「脱ぎあう」といううき

うきとした感じに、中七の「若き」を加えて巧みに表現されている。井上雪の句は、帯紐をきちんとしめる快さを、これを着たその女性ならではの感覚として写生している。中垣成子の句は、「むらさきの春シヨール」に母の姿を抱くやさしい心が見える。

最後に被り物で、春帽子の季語を挙げたい。冬の防寒用の冬帽子や、夏の暑い日射しを避けるための夏帽子と異なり、春帽子は、うららかに、さわやかにおしゃれ用としてかぶられるものであるという。

仏教では、帽子は僧侶が頭にかぶる大切なもので、唐宋音で「もうす」と読むが、漢音で「ぼうし」と読んでもよい。礼装用の誌公帽子は、中国齊代の禅僧宝誌が用いた三布帽に由来する。

春帽子母に向つて冠り来る (中村汀女)

春の彼岸参り——、今は亡き人、最愛の人、なつかしい人へ、ちよつと着飾った春の装いを見せてあげたい、見てもらいたい。こんなにきれいに、きちんと生活しています、しっかりと元気で日々の歩みをしています、ということ報告して、やさしく見つけてもらいたい、温かく見守ってもらいたいのである。

(大正大学教授)

一月の行事報告

修正会とお雑煮の振舞いが無事終了致しました。元旦から沢山の方がお参り下さいました。

お正月らしい飾りとなる修正会の法要。



だし出汁から精進となったお雑煮。

彼岸法要

3月20日(火)

彼岸寄席

午後1時～
地下2階 祖師堂

春彼岸法要

午後2時～
地下2階 祖師堂

プロフィール

入船亭扇好 師匠

昭和38年長野県生まれ。昭和60年入船亭扇橋に入門。平成10年真打昇進。

古典落語を中心に活動。永六輔氏主催の「永住亭」レギュラーメンバーでもある。趣味はスキー、日本舞踊、小唄から古道具集めまで幅広い。



柳家フラワー

昭和60年1月31日 北海道札幌市で生まれる

平成18年東京理科大学を中退

以降、各種様々な職業を経て

平成21年12月 柳家花緑に入門

塔婆申込み方法

同封のはがきを使い3月10日(土)必着でお申込み下さい。
塔婆回向料は1本 7,000円とさせていただきます。

お支払方法

同封の振込用紙で郵便局にてお支払い頂くか、当院受付までお持ち下さい。(銀行でのお振込みは出来ません。)

春彼岸 物産展

3月19日・20日 観音堂

今年も郡上八幡の特産品が梅窓院にやってきます。その他催しもご用意しておりますので、ぜひお立ち寄り下さい。



お檀家様へお願い

3月17日～24日まで、境内駐車スペースは、お体のご不自由な方、車椅子をお使いの方の車を優先とさせていただきます。ご協力お願いします。

※観音堂エントランスにてお呈茶しておりますので、お気軽にお立ち寄り下さい。

春彼岸によせて

古来より、「暑さ寒さも彼岸まで」と言われています。春のお彼岸も、冬の寒さから春の暖かさへと、季節の変わり目になります。外出には好適な季節の到来です。

春のお彼岸は、春分の日を(彼岸の中日)とした一週間をいいます。国の「国民の祝日に関する法律」によれば、春分の日は、「自然をたたえ、生物をいつくしむ日」とされています。

その歴史は古く、六国史の一つ『日本後紀』によれば、延暦二十五(八〇六)年三月、崇道天皇(早良親王)の為に、諸国の国分寺に命じ、春(秋)七日間、『金剛般若経』を誦読させたとあります。浄土信仰の隆盛に伴って、平安時代以降各寺院で盛んに行われるようになり、江戸時代に年中行事化されたといわれています。

一般的にこの期間を中心に、お寺・お墓をお参りし、「牡丹餅／ぼたもち」を作り、ご仏壇に供え、ご先祖様の供養をします。同時に、日々の自分自身を省みて、迷いの多いこの世界(此岸／しがん)から悟りの世界(彼岸／ひがん)へ至るための仏道修行に励む期間とされています。

また、太陽が真東から昇って真西に沈みます。浄土三部経の一つ『観無量寿経』には、「日想観」が説かれています。すなわち、「西へ沈む夕日を見つめること」によって、西の方角(西方)にある阿弥陀仏の極楽浄土へ精神を集中する」という(行／ぎょう)の実践に最も適しているとされています。(中国の善導大師の『観経疏』定善義による)

さて、梅窓院では、春(秋)彼岸などの行事の期間中に、二階本堂に大きな曼陀羅(浄土変相図)を掛けますが、この曼陀羅こそ「日想観」などが説かれる「観無量寿経」の世界を、二次元(平面)に表現したものです。お参りの際には曼陀羅も外陣からご覧いただき、(彼岸)西方極楽浄土への思いを深めていただければ幸いです。

ぜひご家族揃って、ご先祖様のお墓参りをしたいものです。

(法務部・関崎)

三月十一日を忘れない

梅窓院三大チャリティーイベント報告

昨 年三月の東日本大震災以降、全国各地で絶え間なく犠牲者への追悼が行われ、復興支援の活動が色々な形で続けられています。

梅窓院も昨秋の三大恒例行事を東日本大震災復興への義援金を募るチャリティー行事とし、お布施や入場料、チケット代などを義援金として、被災寺院復興のために浄土宗の災害対策本部に寄付致します。行事へご参加下さり、復興支援にご協力いただいた皆様にお礼申し上げます。

平成二十三年九月…お彼岸ライブ in 青山

平成二十三年十月…文化講演会(落合務氏)

平成二十三年十二月…マルティン・ファン・デン・ブック氏 ピアノリサイタル



ライブ前の東日本大震災法要で犠牲者のご供養を。

お彼岸ライブ



大正大学の鴨台プロジェクト、ボランティア活動報告が展示されました。



大正大学雅楽倶楽部による雅楽の奉納。

お彼岸ライブ

チャリティーイベントの第二弾となったお彼岸ライブでは、大正大学の鴨台プロジェクト・東日本大震災ボランティア活動報告の詳細が祖師堂のエントランスに掲示されました。

被災者への追悼法要の後、四組の出演者のみなさんそれぞれの震災への想いを語り、その気持ちを込めた歌声をご披露下さいました。最後は出演者全員がステージに上がり、観客席と一体となって幕を閉じました。

文化講演会

講演者の落合務氏は、震災直後に現地に入り、炊き出しをされましたが、そのお話の前にまずはお料理、得意のバスタ料理を実演いただきました。会場一杯に



文化講演会



落合務氏の料理の実演はもちろん、講演にも会場が魅了されました。



梅窓院僧侶によるトークでは、法然上人の生きた時代が解説されました。



梅窓院ではおなじみの高田なみさん。その澄んだ歌声が会場に響き渡りました。



三浦明利さんはギターを手にデビュー曲「ありがとう」を熱唱。



こちらもお彼岸ライブではお馴染みのアークーシュラ。

ピアノリサイタル



多くの聴衆の心を掴んだフック氏の「The Memory of Tohoku」。

恒例の行事を復興支援イベントとしたことで、支援を意識してくれた方もいらっしやり、多くの方のご参加をいただきました。各行事の布施、入場料、チケット代、そして飲食物の売り上げ金額とした義援金も百六万四千五百七十一円となりました。重ねて御礼申し上げます。当院の復興支援に賛同されたフック氏には義援金をご寄付いただきました。

復興は始まったばかりです。梅窓院では今後もしばしば色々な形で支援をして参りますので、これからも皆様のご理解とご協力をいただければ幸いです。

毎年、梅窓院の祖師堂で行われていましたが、今回は、リスト生誕二百年記念ということでサントリーホールで開催。「コンサートホール」で聴けると四百名を越える聴衆が集まりました。

オランダ人ピアニストのフック氏は、東北地方の民謡をメドレーで編曲し「The Memory of Tohoku」を演奏、東日本大震災犠牲者に捧げました。

当演奏会のみならず、滋賀、名古屋の各コンサート会場でも、故郷の民謡に涙する方が少なくなかったようです。

ピアノリサイタル

ニクニクの香りが立ち込めると、会場からは思わず睡を飲む音が……。二品目のナポリタンを作った後に、吹き出しの様子をお話いただきました。講演が終わると、すぐに出口にいられて、二百人近い聴衆の一人ひとりと握手。梅窓院の檀家でもある落合さん、この講演でファンがまた増えたようです。

早いもので、梅窓院が伽藍を整備して今年で8年目。この伽藍整備に大いに協力いただいたのが、今回ご登場いただく

社長。不動産事業から結婚式場、レストラン、スポーツクラブなど多くの事業を手掛けられる実業家だが、その社長が情報発信基地として選んだのが、ここ青山。社長が選んだ青山の魅力を伺った。

◆本日はお忙しい中、お時間をいただきありがとうございます。

リビエラ青山のビルは梅窓院の境内からもよく見えるのですが、去年からビルの上に緑が見えるようになったのですが……。

はい、屋上の空きスペースに小さな菜園を作りました。そして、その菜園で作った野菜を去年の5月からですが、月1回の朝市でお分けしています。

◆お客様はおいでになりますか。

はい、思ったより近くにお住まいの方は多いようです。

◆始められた理由は何ですか。

ここ南青山に朝の文化を育てたいと思ったからです。

ご存知のように、赤坂や六本木、麻布は夜の文化が盛んです(笑)。ところが、そこに隣接する青山は夜の文化圏ではない。そこに朝を活用する文化圏を作りたいと思ったのです。

◆朝の文化ですか、興味深いですね。

「早起きは三文の得」ということわざがありますが、朝ご飯をしっかりと食べて、朝の時間を有効活用するのは大事なことです。特別なことではありませんが、そうした朝を楽しみ大切にする提案基地にしたい。

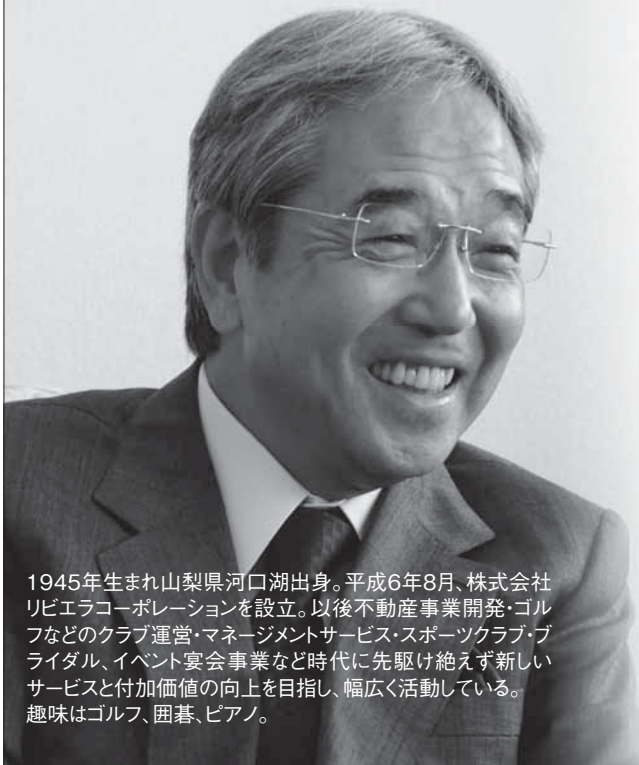
◆社長は山梨県の河口湖出身と伺いました。ご実家は農業も営まれているとのことですね。

ええ、自然豊かな場所に育ちましたから、大自然の中で心豊かに生きることは何処にいても、いくつになっても忘れたいはありません。

都会には大自然はありませんが、社員が屋上の菜園で野菜を育てると、植物の恵みや四季の変化など、自然を身近に感じられます。朝市に来られる方も、ここ南青山で育った新鮮な野菜に感激してくれています。

◆太陽とともに寝起きし、太陽の恵みに感謝する生活ですね。

そうですね、加えて私のリビエラグループでは110人の調理人がいて、年間30万食を皆さんに提供しています。ですから、今は糖尿病やガンを日頃の食生活で防ごうという医療フォーラムを立ち上げているところです。



1945年生まれ山梨県河口湖出身。平成6年8月、株式会社リビエラコーポレーションを設立。以後不動産事業開発・ゴルフなどのクラブ運営・マネージメントサービス・スポーツクラブ・ブライダル、イベント宴会事業など時代に先駆け絶えず新しいサービスと付加価値の向上を目指し、幅広く活動している。趣味はゴルフ、囲碁、ピアノ。



▲▶南青山三丁目から外苑西通りを西麻布方面に向かった右手にあるリビエラビル(下)とその屋上にある菜園。



朝の文化と食による病気予防、この2つをここ青山の柱にしていきたいと思います。

◆青山を選んだ理由は何でしょうか。

私は当社のゴルフ場があるロサンゼルスを拠点にして、1年の3分の1は海外で色々なことや場所を視察しています。

海外から日本を見ると「青山」はすでに日本を代表するブランドになっています。通信技術が進歩して、青山で起きていること、青山で流行っていることは、もうオンタイムで世界に発信されているのです。

◆青山は情報発信能力が高いということですか。

ええ、皆さんが思っている以上に流行や、ライフスタイル、そしてカルチャーといったものが、青山から世界に伝わり、注目されているのです。

ですから、単に机上のプランで終わらせるのではなく、実際に行うこと、アイデアを形にすることを世界への情報発信基地であるここ青山でのメインテーマにしています。

◆なるほど。

ですから、私は梅窓院さんとは建設で縁をいただきましたが、梅窓院さんで行っている色々な行事は大変興味深く拝見していました。

梅窓院さんは社会的に魅力ある文化活動を続けていらっしゃる。そして、中島住職も相手を引き込む行動力と魅力がありますね。

◆住職、喜びます(笑)。

最後に社長の信条と社員への接し方を教えていただけますか。

逃げないこと、人を裏切らないこと。古い言葉ですが、義理人情を忘れずに人間らしく生きていくことですね。

社員にはよく社長は我慢強いと言われる。自発的に仕事をしてもらうには、自分で気づいてもらうのが一番。その為に多くは云わない、怒らない、というのが私の信条です。

また、仕事柄現場にはアルバイトや配膳の方も多いのですが、そういう皆さんによく声をかけます。お客さまと直接触れ合い、ことばを交わす人々を大切にするのはサービス業の基本だと思っていますから。

◆色々なお話をいただき、ありがとうございました。

いえいえ、ぜひ梅窓院さんと一緒に青山の朝文化を育てていきたいと思っています。

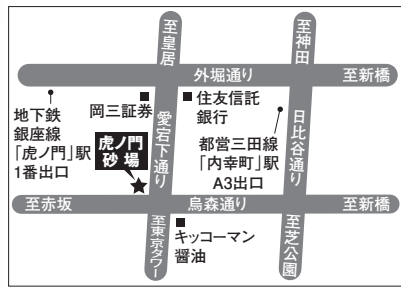
◆よろしく願い致します。

虎ノ門 砂場

今回お邪魔した「虎ノ門 砂場」は梅窓院のお檀家様である 様のお店。明治五年創業の老舗中の老舗だ。そもそも「砂場」という呼称の歴史

をさかのぼると江戸時代以前の話になる。元は大阪の和菓子屋「和泉屋」という店が資木材や砂を置く所、通

とば
虎ノ門
砂場



営業時間／(平日) 11:00~20:00
(土曜日) 11:00~15:00
定休日／日曜日・祝日
住所／東京都港区虎ノ門1-10-6
TEL／03-3501-9661
FAX／03-3501-4535

まると、いつしか
そばを食べに
行くことを、

「砂場へ行こう」となり、砂場が蕎麦屋の代名詞になった。そして安土桃山時代の後期、訳あつて家康に和泉屋が貢献したことから一緒に江戸へ進出、麹町七丁目「砂場」を開き江戸での名店が誕生した。
店の季節に関するこだわりは、暖簾の色や、季節限定の蕎麦にも現れる。おすすめは、つるりとしたのと越しの素晴らしい御膳そば。割合は「外二と十・小麦粉二」。この割合は「外二」といい、砂場ならではのものは、是非一度お試しください。



▲一番人気の御前そばは780円。



▲冬限定メニューの一つである蛤そば、1400円。



▲日本建築物文化財となっている店舗。



▲代々伝わる古文書。当時のそばを食べる様子が見える。

青山俳壇

選者「ウェブ俳句通信」編集長

大崎紀夫

- ◎特選
○ 祖師廟へ辿る階薄紅葉

◎入選

- 短日やひと日過ぎればひと日老い
- 母似なり成人式の晴れ姿
- 職を得し孫にも注いで年酒かな
- 枯蓮のくの字くの字に傾きて
- 雪山路立ち往生のバスを押す
- 成人となりて縁なきお年玉
- 辰年の平和を願ふ大旦
- 空も澄み海も澄みゆく寒の入り

◎選者詠

- 雨戸操る手に初風の触れにけり

大崎 紀夫

ワンポイントアドバイス
もうすぐ春です。春になると、眠気を催すような季節がかなり出てきます。「亀鳴く」「蛙の目借時」「魚氷に上る」「鷹化して鳩となる」「鰻魚を祭る」「竜天に登る」「田鼠鶉と化す」など。現実にはありえないこのような季節は、楽しく使う方がいいでしょう。人を食ったような句をたくさん作った高浜虚子の忌日を詠んだわたしの自信作(?)は「眠たげに亀鳴く虚子の忌なりけり」です。

投句募集

今回は「春の季節語」でご自由にお詠み下さい。4月6日を締切り、6月発送の『お盆号』にて発表致します。住所、氏名をお書き添えの上、ご応募下さい。皆さまの投句をお待ちしております。
〒107-0062 港区南青山2-26-38
梅窓院「青山俳壇」投句募集係

「やぶれ傘」会員募集

青山俳壇の選者、大崎紀夫先生による俳句の会です。ご興味のある方は、下記の番号までご連絡下さい。
ウェブ編集室
電話03-5368-1870

第四十六回
食は命なり

食養研究家
武鈴子

春の薬食・クチナシ

彼岸7日間の取り方が今のようになったのは江戸時代の終わりからで、それまでは必ずしも春分・秋分が彼岸の中日にはなっていなかったといえます。春分のころには昼と夜の長さが等しく、「暑さ寒さも彼岸まで」といわれるように、陰陽の気が調和していて気候も温和となります。

春のお彼岸の行事食としては「牡丹餅」が恒例となっていますが、もう一つクチナシの実を利用した菜種御供があります。クチナシの実で黄色く色づけした団子をお粥や雑煮などに入れて、菜種御供大祭で参拝者にふるまわれます。

クチナシ団子は、クチナシの実をつぶして水にしばらく浸けておき、十分色が出たら、ボールに白玉粉を入れ、クチナシ水で耳たぶ位にこね、直径2~3cmのだんごに丸めます。沸騰した湯に、丸めた団子を入れ、団子が浮き上がったら1~2分茹でて、冷水に取り、水気をきります。

クチナシは飛鳥時代から黄色染料として知られ、食品の色づけにも利用されてきました。漢方では「山梔子」と呼ばれ、胆汁の分泌を促進し、止血、鎮痛、降圧作用などがあります。

春先はのぼせ、イライラ、不眠、目の充血、血圧の上昇などが現れやすいですが、クチナシはこれらの症状に効果があるのです。クチナシで染めた栗きんとんやタクアン漬けなどには美味しく食べて病気を未然に防ぐ先人の知恵が潜んでいたのですね。

行事予定

春彼岸会法要

3月20日(火)
寄席 午後1時～ 祖師堂
法要 午後2時～ 祖師堂
※詳細は3面をご覧ください。

はなまつり

4月6日(金)～8日(日)
寺院棟2階 本堂
お釈迦様の誕生をお祝いする「はなまつり」。寺院棟2階本堂エントランスに花御堂を、休憩所には甘茶をご用意しております。皆様どうぞご参拝下さい。

大施餓鬼会法要

5月19日(土)
※詳細は施餓鬼号にてお知らせ致します。

第56回 念仏と法話の会

第56回 念仏と法話の会
6月5日(火)
時間 12時半～(受付12時より開始)
法話:「三心四修」
講師 熊本教区 遣迎寺住職 山崎 龍道上人
※詳しくは別紙チラシをご覧ください。

開山忌法要・能楽奉納

6月9日(土)
※詳細は施餓鬼号にてお知らせ致します。

秋彼岸写真コンクール開催のお知らせ

今年もお彼岸ライブにて、写真コンクールを開催致します。ライブ会場をみなさんのお写真で飾りませんか?当日会場にて人気投票を行い、一位の方には景品を差し上げる予定です。詳細については6月1日発行の『青山』お盆号にてお知らせ致します!

発行 梅窓院
発行日 平成24年3月1日
発行人 中島 真成
編集 青山文化村
住所 〒107-0062 東京都港区南青山2-26-38
電話 03-3404-8447
FAX 03-3404-8107
ホームページ <http://www.baisouin.or.jp/>
E-Mail jodo@baisouin.or.jp
題字 中村康隆元浄土門主
総本山知恩院第八十六世門跡



梅窓院墓苑通路補修工事のお知らせ
墓苑内の参道は10年前に舗装しましたが、最近痛みが目立つようになりました。そこで、お参りしやすい環境を守るために、墓苑内全域の通路補修工事を行っています。該当する方々には事前にお知らせさせて頂いておりませんが、順次、通行止めの箇所がございますのでご注意ください。詳細は梅窓院受付までお問い合わせください。お参りしやすい環境を整えるための工事ですので、皆様のご理解・ご協力お願い申し上げます。

平成24年度 前期 仏教講座のご案内

梅窓院では4月より平成24年度 前期 仏教講座を開講します。今年度も5名の講師でお送り致します。どうぞお気軽にご参加ください。 ※詳しくは別紙チラシをご覧ください。

全講座▶午後6時～8時(受付は午後5時から) 受講料▶無料 場所▶祖師堂(B2F)

講師/阿川 正貴 先生(浄土寺住職 大正大学講師)
講題/続・漢詩の中の仏教
第1回…4月27日(金) 詩人たちと仏教①
第2回…6月12日(火) 詩人たちと仏教②
第3回…8月 9日(木) 詩人たちと仏教③



講師/新井 俊定 先生(天然寺住職)
講題/禅林寺永観律師と法然上人
第1回…5月15日(火) 永観律師の生きた時代 ―その生涯を中心に
第2回…7月31日(火) 永観律師の教え
第3回…9月11日(火) 永観律師と法然上人



講師/勝崎 裕彦 先生(香蓮寺住職 大正大学仏教学部長・教授)
講題/大乘仏教を読む
第1回…6月21日(木) 華嚴経の古訳経典
第2回…7月26日(木) 華嚴経を読むV ―『兜沙経』と『菩薩本業経』①
第3回…8月23日(木) 華嚴経を読むVI ―『兜沙経』と『菩薩本業経』②



講師/林田 康順 先生(大正大学准教授、大本山増上寺布教師、慶岸寺副住職)
講題/法然上人のみ教え ―『選択集』を読む―
第1回…4月16日(月) 『選択集』第4章① ―三輩往生について―
第2回…5月28日(月) 『選択集』第4章② ―廃助傍の三義について―
第3回…6月25日(月) 『選択集』第4章③ ―三輩と九品について―



講師/本林 靖久 先生(真宗大谷派僧侶、大谷大学・佛教大学等講師)
講題/ブータンから学ぶ幸福のカタチ
第1回…5月11日(金) ブータン・ブームを読み解く
第2回…7月 6日(金) 民話にみる幸福な生き方とは
第3回…9月 7日(金) 持続可能な観光のあり方とは



我が家の宝物!

左/ ちゃん(6歳)・右/ ちゃん(6歳)

投稿者より

今年二人の孫が1年生になります。元気で学校に通う日を楽しみにしています。(祖父)

編集部より

着物姿がとってもかわいらしい ちゃんと ちゃん。普段からとっても仲良しだそう。4月からはそろって1年生ですね。

お写真大募集!!

おめでとうございます!

お孫さんと一緒のお写真と推薦者のおじいちゃん・おばあちゃんのコメント(30～150字程度)を青山文化村までどしどしお送り下さい。お孫さんのお名前、お年も忘れずに。(お送り頂いたお写真は返却できませんので予めご了承下さい)掲載させて頂いた方には御礼として梅窓院煎餅を差し上げます。

〒107-0062 港区南青山2-26-38
青山文化村「我が家の宝物」募集係